

12

三潑保育園 園だより

December

2020

早いもので今年のカレンダーも残すところあと1枚。
本来なら待ちに待った“東京オリンピック”が開催され
日本中が盛り上がった1年になるはずでした。
子ども達も世界のトップアスリートの活躍や日本選手団
の応援を楽しみにしていたことでしょう。

全世界に猛威を振った新型コロナウイルスの影響でオリンピックは延期となり、
園生活においてもいつも通りにいかないことが沢山ありました。
今まで当たり前に行っていた行事の中には中止せざるを得ないものもありとても残念で
したが、それでも感染対策に留意しながら、従来の形にとらわれず新しい行事の形を模索し
た一年。
保護者の皆様のご理解とご協力があって、無事今年を締めくくることが出来そうです。

思い切って見方を変え、柔軟に対応していくことで新しい発見も多く、いろんな意味で
2020年は心に残る1年になったと思います。

そして、今年の締めくくりとなる“お遊戯会”に向けて、子ども達の練習にも熱が入って
います。世界に1着しかない手作りの衣装を身につけて、大きなステージでの晴れ姿を
楽しみにしていただいね。

田島 三佐子

新しい仲間が増えました！

杉野 朱美（すぎの あけみ）先生

11月から入職されました。

11年の保育キャリアをお
持ちのママです。今年度、もも組（1歳児ク
ラス）に入ってください
ています。

“皆さん、よろしくお願ひします”

◆注意してください◆

駐車場のご利用について

- ・利用時のアイドリングは
近隣のご迷惑となります。
お控えください。
- ・車上荒らしにはご注意
ください。
- ・子どもから決して目を離さ
ないでください。

クラス目標 ～1か月大切にしたいこと～

- たんぽぽ組** 一人一人がゆったりと自分の好きな遊びを楽しむ。
気候や体調に留意して、適度に薄着を心がけながら丈夫な体を作る。
- もも組** 冬を元気に健康で過ごす為、衣服を調整しながら戸外や室内で体を
沢山動かして遊ぶ。
お遊戯会の練習を保育者や友達と一緒に楽しんで行えるようにする。
- ばら組** 友達との関わりの中で自己表現しながら、相手の気持ちに気付く。
冬の訪れを感じながら、戸外で遊ぶ楽しさを知る。
- うめ組** お遊戯会に向け友達と一緒に表現することを楽しむ。
冬の訪れを感じながら元気に体を動かして遊ぶ。
- すみれ組** 体調管理を意識して、身の回りのことをする。
友達とイメージしたものを共有して楽しむ。
- ゆり組** 自信をもってお遊戯会に参加し、喜びや達成感を味わう。
健康的な生活に必要な習慣を身につけ、健康に過ごせるようにする。

行事
予定

- 2日（水） 【締切り】お遊戯会衣装提出
- 3日（木） 不審者対応訓練
- 7日（月） YYレッスン
- 14日（月） 避難訓練
- 16日（水） YYレッスン
- 19日（土） お遊戯会リハーサル
- 20日（日） お遊戯会
- 23日（水） 身体測定
- 24日（木） お誕生会
- 28日（月） 保育納め（年内最終日）

*新年は1月4日（月）7:00からの開園となります。



保育士の目線

【子ども時代にしかないファンタジーの世界を大切に】

もも組 津川 徹也

もも組（1歳児クラス）の活動の一部をご紹介します。

子ども達は普段から絵本が大好きです。その中でも“きんぎょがにげた”は大人気。

保育士が読むと、子ども達はぐっと引き寄せられてその世界観に入り込みます。

そんな中で、今回はこの“きんぎょがにげた”の中に出てくる世界を子ども達と一緒に作ってみることにしました。

子ども達には、私たち大人にはない能力があります。それはいとも簡単にファンタジーの世界を自分のものにする事です。サンタクロースやアンパンマンが実在すると想像して、それに愛着を持ったり、現実世界で遊びを展開したりしますよね。

今回の活動は保育者と一緒にそのファンタジーの世界と現実をつなげてみるということです。



さて、まずは前準備として紙で水槽の周りに貼るレンガ造りを進めてみました。

黄土色の画用紙に別の色の画用紙を糊付してみる事です。

画用紙を自由にやぶります。これは子ども達の手先の発達によいことです。発達は体の中心から手先へと順に発達するので、手先を使って活動することは大切な事です。子ども達は“びりびり～！”と声に出しながら楽しそうにちぎっていました。

そこから糊付けをしました。

以前は糊の感触を嫌がる子達もいましたが、もう慣れっことです。



大量に糊をすくって“ココに貼ろうよ”と会話も始まりました。だけど、それぞれの子ども達にはすでにファンタジーの世界が作り上げられているため“いや、こっちに貼る！”と自分の意見を主張することもあって、私達もびっくり。そんな時は、その子の意見を尊重して一緒に見守りました。心がけたのは手伝うというよりも見守る事でした。

さて、ここまでが活動の下準備です。

そしていったん、又、絵本を読みなおしました。

すると、子ども達は“あー！あそこにボールがあるよ！”や“きんぎょがおったね！”などと絵本をより集中して見るようになりました。私達は子ども達が自分の気づいた事を言葉で伝える事が多くなってきたとも感じました。そんな時は、保育者は親身になり子どもの話を最後まで聞くように心がけています。



さあ、金魚の色塗りの時間です。

今まで色を塗る時の活動はたいてい2～3名ずつと、小さなグループで行っていました。

しかし今回はチャレンジしました。12名ずつ同時に色を塗って見たのです。

“みんなで色塗ってみる？”と尋ねてみると“うん！する！”と元よく教えてくれました。

正直、私たちは大丈夫かな？と少し心配していたのですが・・・。

結果は、大人たちが“上手に塗ってるね～！”と言葉を掛けてもその声が聞こえないほど一生懸命に集中している姿が見えました。

それぞれが絵本の世界を思い出し、現実の世界につなぎ合わせながら楽しんでいました。

そんな活動の延長で、親子遠足では広い公園を走りながら“きんぎょ探し”が出来ました。

今回の活動の目的は“子どものファンタジーと現実をつなぎ合わせる”というところでした。

製作が終わって外で活動していた別の日には、葉っぱを見て“きんぎょ”と言ったり、空に飛んでいた飛行機を見て“きんぎょ”といったり。



たぶん葉っぱの赤色や飛行機の形が似ていたのかもしれませんが。

子ども達は普段からファンタジーと現実を行ったり来たりしているんですね。

言葉は出なくても、子ども達の頭の中ではいろんな事を空想したり考えたりしながら着実に成長していると感じます。

指をさして何かを伝えようとしたり、泣いて自分を表現したりすることも、そういう成長の中での出来事だと思います。

これからも子ども達のファンタジーの世界を広げて想像力をはぐくみながら、考える力や表現しようとする力を大切にしたいと思います。

ただ制作をするという行為だけではなく、その中で養われることを大切に子ども達と過ごしていきたいと思っています。